

ケアマネジャーは地方議員を目指せ！

# 介護を政治で 変えていく

ここ数年、地方議員に当選するケアマネジャーが出始めています。超高齢社会を迎えた今、介護現場の声は住民の声。その声を直接受け止めているケアマネジャーが政治家になれば、それが介護業界を変える一手になる可能性は大。自ずと期待が高まります。



## 現役介護福祉士から船橋市議会議員に！



佐藤つぐみさん

「地方議員は利用者さんにもつながる  
とても価値のある仕事です」

プロフィール  
船橋市議会議員、株式会社ソーシャルEC代表取締役、株式会社介護屋宮崎 取締役。「デイサービスに通いながらはたらける」プロジェクト(ななしよくプロジェクト)を推進する現役の介護福祉士。

大学卒業後、介護業界一本で仕事をしてきたこともあり、船橋市議会議員の宮崎直樹さんからどんなに勧められても、政治家になるという選択肢は考えられませんでした。

具体的に政治の力に気が付いたのは、私が3年間お世話になっていた、「デイサービスの活動中に利用者が仕事をして対価を得る」ことを日本で初めて可能にした事業所で

働いていたときの体験です。職員として役所をお願いにいてもなかなか認められなかったことが、地元の議員さんに頼るとスムーズにことが運ばれたり、コロナ禍で事業所の経営が厳しくなったときにも議員さんにお力添えをいただいたことで、地方議員は「利用者さんにもつながる、とても価値のある仕事だ!」と確信しました。2年後の出馬を考えていたら、今年6月に補欠選挙があると聞き、悩んだ末に出馬を決めました。SNS、駅での演説、ビラ配りを中心に活動し、2位との差が800票という僅差で当選いたしました。

「役所が適切に運営できているのかをチェックする機関が議会です」と言われると難しいですが、初めての議会で分かったことは、行き着く先はすべて地域福祉だったということです。誰かにとって住みやすい街への取り組みは、色んな方にとっても住みやすくなります。すると、超高齢社会の課題解決にもつながることも多いのです。今後も地域や介護分野において貢献できることを増やしていけるように、勉強と実践を続けていきます。